

法学部生に聞いた!

REAL VOICE

法学部の学生は十人十色。

多様性に富んだ学生に対し、法学部ではそれぞれのやる気を後押しするサポートを行っています。

学部ならではの奨学金制度や多彩なプログラムを活用して「行動する知性。」を育む、3学科の学生に話を聞きました。



中央大学法学部へ進学した理由を お聞かせください

馬場 高校生の時から法曹志望で、法律学を勉強するなら中央大学法学部法律学科が最適であると考えたからです。炎の塔の研究室で志と同じくする仲間と学べることも、本学ならではの利点であると感じています。

杉田 私は将来なりたいものがたくさんあり、大学時代に決めようと考えていました。何をするにせよ法律は実社会で役立ちます。歴史ある中央大学法学部のハイレベルな環境で法律を学びたいと思いました。

持田 受験勉強に励んでいた頃、現役の中大法学部生から勉強を教わったからです。その時充実した学生生活を過ごす先輩の姿と人柄に憧れました。その後『高校生からの法学入門』で法律の楽しさと奥深さを知り、将来はダイバーシティなまちづくりに関わっていきたいと考えるようになりました。

皆さんが学んでいることについて お聞かせください

馬場 主に基本7法(民法、憲法、刑法、民訴、刑訴、

会社、行政)です。専門演習では、検察側と弁護側に分かれるディベートを通じて、刑法の学修を深めました。私は検察官志望ですが、刑法はほかの科目に比べて学説対立が激しく、そこに興味を惹かれました。

杉田 2年次のゼミでは東日本大震災の復興について学びました。現地の方から実際にお話を聞き、防災を備えたまちづくりへ向け、法律や公共政策など多方面からアプローチを試みました。3年次には公共政策・公共経営の専門演習に所属し、静岡県掛川市のフィールドワークに参加、2年次の学びを活かし、南海トラフ大地震への対策を考察しました。

持田 ゼミ活動を通してパリアフリーや地域振興について、制度や政策の面から研究しています。法学部では各学年で多くのゼミが設けられており、広告やメディア、スポーツ法など分野が豊富な点も魅力です。

私は公共経営、国際関係、福祉政治と毎年異なる分野のゼミに所属したこと、関心や知識が多く岐にわたって深まりました。

海外体験や奨学金の活用法について お聞かせください

馬場 海外体験の1つである法学部独自のグローバル・プログラム専門総合講座「カンボジア法整備

支援と社会開発援助」を履修しました。コロナ禍で現地を訪ることはできませんでしたが、途上国の法整備支援に関心があったので大変有意義でした。「やる気応援奨学金」は、法科大学院受験に必要な書籍の購入や模試費用に充てさせていただきました。受験料を含めると相当なお金がかかるので、法曹を志す学生にとってはとてもありがたい奨学金です。

杉田 FLP履修生を対象としたイタリアでの「アグリツーリズモ・ワークショップ」に参加する予定です。ここではイタリアの農業、食、文化、観光を学ぶほか、農場見学や乗馬体験などユニークなプログラムが組まれています。私の内定先である日本中央競馬会は農林水産省下に置かれる特殊法人で、卒業論文でもイタリアの競馬に触れているので強いつながりを感じています。

持田 国際寮での生活は視野を大きく広げてくれました。100人超の留学生と一緒に過ごす時間は物語のように面白く、入学以前は希薄だったグローバル志向が開花しました。後のサッカー部での東南アジア研修やカタール一人旅へつながったと思います。来年は「やる気応援奨学金」を活用して新たなチャレンジを考えています。

法学部生になっての 成長や変化について教えてください

馬場 入学当初は「犯罪者=悪」と思っていました。しかし、犯罪者の多くはその人間に犯罪者としての素質があるわけではなく、社会や環境が影響していること、そして根本的な解決へ向けては釈放後の適切な措置が必要であり、検察官の役割も大きいことを認識しました。この考え方の変化は、私にとって最も大きな成長といえます。

杉田 入学以前は完璧主義な性格で何事も一人で背負い込むような人間でしたが、大学では出会いに恵まれ、素直に人に頼ることができるようになりました。就職活動中の迷いを、ゼミの教員やOB・OGの方々に相談できたことも大変心強かったです。

持田 「アクションを起こし、乗り越えていく力」です。多くの方に支えられ、車椅子でもサッカー部で活動できていること、留学生を交えてバラスポーツのイベントを開いたことなど、以前の自分には想像できなかつたことです。2022年はW杯観戦のため単身でカタールへ渡りました※。ユニバーシティメッセージである「行動する知性。」に倣い、Beyond Bordersともいえる果敢な生き方を、あらゆる場面で実現していくと考えています。

中央大学法学部を 漢字一文字で表すなら何でしょう?

馬場 「実」です。法学部には本学の校風である「質実剛健」の言葉通り、気取らず真面目で、心身ともに強い人が多い印象です。また私自身、演習や法律科目の履修を通して、法律の勉強は堅苦しい暗記ではなく、「事実」を自分なりに評価して「真実」を導き出すことであると実感し、面白さを感じることができます。中央大学法学部で学んだ日々を忘れず、法曹をめざす者として、常に誠実で在りたいです。

杉田 「自」です。法学部の3学科には高い垣根はなく、学びたいことを学びたい時に学べる「自由な」環境があります。私自身がそうだったように、「やりたいことが変わっても、中大でなら学べる」、そして「自ら」進んで行動すれば大きなチャンスを手に入れることができます。それを一番伝えたいです。

持田 「夢」です。中央大学法学部は第一線で輝く先輩方の活躍が示す通り、充実した毎日から思うように夢を見つける場、夢をめざせる場であると感じます。多摩から茗荷谷へ、「夢が育まれる舞台」が新たに整い、そこで学生同士が高め合えることを嬉しく思います。

卒業後の進路や将来の夢について お聞かせください

馬場 東京大学大学院法学政治学研究科に進学予定です。検察官として社会正義の実現に努め、そこから得た見知りや経験を活かして、将来は国際的な司法支援に携わっていきたいです。

杉田 卒業後はJRAごと日本中央競馬会に入会します。自分が好きなことを仕事にして、競馬の公益性をより多くの人に伝えたいと考えています。

持田 大学での学びを活かしてダイバーシティの発展に寄与していきたいです。そしてサッカーの世界で活躍することが大きな夢です。世界のどこかでサッカーチームを創りたいです。馬場さん、杉田さんのお話を聞いていて、自分が高校生なら中央大学法学部に進学したい、何かやれそうな気がする、とあらためて感じました。

